

(様式3)

会議の開催結果について

|                    |                                |
|--------------------|--------------------------------|
| 1 会議名              | 河内長野市バイオマスタウン推進協議会             |
| 2 開催日時             | 平成27年8月26日(水) 14:00から          |
| 3 開催場所             | 河内長野市立市民交流センター 3階 会議室2         |
| 4 会議の概要            | 1. 今年度の取組み・検討事項について<br>2. その他  |
| 5 公開・非公開の別<br>(理由) | 公開                             |
| 6 傍聴人数             | 0人                             |
| 7 問い合わせ先           | (担当課名) 環境共生部 環境政策課<br>(内線 558) |
| 8 その他              |                                |

\*同一の会議が1週間以内に複数回開催された場合は、まとめて記入できるものとする。

## 第 15 回 河内長野市バイオマスタウン推進協議会 議事要旨

開催日時：平成 27 年 8 月 26 日(水), 14:00～15:20

開催場所：河内長野市立市民交流センター会議室 2

〔出席者〕 (省略)

### 次第

1. 今年度の取組み・検討事項について
  - ① SVO 発電の普及促進策について
  - ② 環境教育の一環としての小水力発電実験について
  - ③ 薪ストーブの農業用利用について
  - ④ 竹パウダー培土の特許出願について
  - ⑤ 竹はしの利活用について
2. その他

### 開会

開始時間になり、会長あいさつの後、議題に入った。

### 議題

#### 1. 今年度の取組み・検討事項について

##### ① SVO 発電の普及促進策について

一昨年度末に購入したディーゼル発電機を使って SVO 発電し、廃油回収を PR していくため、庁内各課のイベントで発電機を使用してもらえないか呼びかけを行っている。資料の写真は、今年 4 月に長野公園で行われた「さくらイベント」の出店ブースで使用したものである。今のところ、危機管理課と調整し、11 月 1 日(日)に赤峰市民広場で開催される地域防災訓練での PR を検討している。

使用にあたっての注意点は、歩行者の足にコードが引っかからないよう配線に気を付けることと、発電機の周辺に誰か人をつけておくことが必要である。運搬については、発電機本体に車輪がついているため、人力で押して動かすことができる。

河内長野ガスのイベントや河内長野市公園緑化協会のイルミネーションなどで活用できないか検討いただけることとなった。また、使用場所にもよるが、森林ボランティアトモロスの森林整備活動での活用の可能性も意見としていただいた。

市内各自治会が行う防災訓練での出番も視野に入れた広報誌での周知や夜間の防災訓練など実施できないかという意見もいただいた。

イベント等で活用する際には、廃油を燃料に発電していることや廃油回収も同時に実施するなどの PR も必要であると会長より意見をいただいた。

##### ② 環境教育の一環としての小水力発電実験について

昨年度、当課で事務局をしている「河川を美しくする市民の会」が小水力発電装置を購入した。9 月 2 日(水)に天見小学校で組み立てと発電試験を実施するので、時間のある方はご来場いただくよう紹介した。組み立てた後の PR については、天見地区の街灯の少ない箇

所でLEDを照らすことを考えているが、未定である。

他の地域での活用として、日中は発電装置の電力を車のバッテリーに充電し、夜間の照明の電力として使っているところもあるが、委員のみなさんに良いアイデアがあれば事務局まで連絡するよう会長から促していただいた。

### ③薪ストーブの農業用利用について

前回の会議で話した薪ストーブの農業用ハウス利用の実験のため、(有) 憩暖の小林委員に相談したところ、資料にある時計1型薪ストーブを紹介いただいた。1万円程度で購入できるので、お試して実施するには取り組みやすいと思われる。

また、ハウス内の二酸化炭素濃度を上げることで収穫量や果実の糖度が上がることが論文で報告されており、薪ストーブの利用によって保温効果以外にも効果が期待できる。

大阪府立大学東條准教授の後期授業でと考えていた当該実験は、夜間の火の管理に懸念があり断念したが、農家が協力してくれるのであれば、実験計画やデータ整理などは東條先生が行っていただけるとのことであったので、現在市内の農家を探している。農家においても同じく夜間の火の管理やの懸念が想定されるので、そのあたりを考慮した実験計画を東條先生と一緒に考える。

薪の利用拡大も必要であるが、薪の供給体制(場所)も必要である。くろまろの郷ができる前に高向(宮の下)で農林課が行っていた薪ステーション事業は、大阪府森林組合に事業を移管されているが、人目に付くところで実施できたら事業のPRにもつながるので検討してほしいと会長より意見をいただいた。

### ④竹パウダー培土の特許

大阪府立大学東條准教授の協力のもと進めてきた「竹パウダー有効利用試験」の中で、立枯病や青枯病の原因となる土壌病原菌の生長を抑制することが認められ、9月に開催されるオーストラリア植物病理学会で同大学大学院生が発表することとなった。それに先立ち、当該手法も特許申請することとなり、大阪府立大学、河内長野市、事業者としてゲオール商事が入って、三者で出願することとしている。次回の会議において、東條先生にお越しいただきお話をお願いすることとした。

今後、商品化していくにあたって、やはり河内長野市産の竹を原料に使ってもらう必要があり、そのための搬出数量の把握も必要であるが、供給体制を整えていかなければならないことを会長より指摘いただいた。

### ⑤竹はしの利活用について

井上スダレ(株)より選出いただいていた堀川元委員が、同会社を退職し、橋本市内で竹箬を作っているというお話を伺ったので連絡を取ったところ、手作業で竹箬を作っているとのことであった。より多くの製品を製造できるよう、一部自動化するため機械を作成しているとのこと、完成したら見学させてもらうこととなっている。見学後は、協議会で報告する。

## 2. その他

次回の会議は、11月と2月に開催する予定。

閉会